

## 真宗学科 中学校一種・高等学校一種（宗教）

### 【教員養成の理念】

本学は学則で、「教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、仏教の精神に則り、人格を育成するとともに、仏教並びに人文に関する学術を教授研究し、広く世界文化に貢献する」（大谷大学学則第1条）ことが大学の目的であると明記しております。また、本学科の人物育成の目的は、「釈尊の教説や親鸞の著作などに依り、自己を問い、人間を問うとともに、親鸞思想とその思想的背景の研究を進め、仏教精神に基づく豊かな人物の育成をめざす」（同学則第3条第3項）ことにあります。この仏教精神に基づく教育を行うという理念は、本学科における教員養成の理念でもあります。

従来、真宗学科では、この理念の下、「中学校教諭一種免許状（宗教）」「高等学校教諭一種免許状（宗教）」を取得する課程を設置し、仏教・真宗の知見に基づいて、人間を深く理解し、一人一人の生徒に寄り添いながら、人間教育を行うことのできる教員の養成に努めてきました。

### 【教員養成の構想】

真宗学科開講の専門科目では、親鸞思想とその背景および展開、また現代社会における親鸞思想の意義を学ぶなど、親鸞思想に基づく人間教育を行い、あらゆる人々を敬い、共に生きる社会の構築を目指す人物を養成できるように、カリキュラムの工夫を行っています。本学科が設置する「中学校教諭一種免許状（宗教）」「高等学校教諭一種免許状（宗教）」を取得する教職課程においては、「教科に関する科目」は上記の真宗学科に開講されている専門科目を履修します。また、「教職に関する科目」である「宗教科教育法Ⅰ～Ⅳ」では、主として釈尊と親鸞を題材とした実践的な学びを通じ、一人一人の生徒に寄り添いつつ、宗教的情操の涵養に努めることのできる教員の養成を目指します。このような学びを通して、宗教的情操を身に備えた教員を社会に送り出すことによって、仏教・真宗に基づく人間教育、すなわち思いやりの心、いのちを尊ぶ心を育み、豊かな人間関係を築くことのできる生徒たちを育成し、現在の教育現場の要請に応えていきたいと思えます。

### 【学科として養成したい教員像】

本学は、親鸞の仏教精神を大学の教育理念に置き、学祖清沢・佐々木による仏教精神の近代化の試みを経て、現代にもその建学の精神を生かすために、これまでも積極的に教員養成に取り組んできました。一人の人間の人生に関わり、人の成長に影響を与える教員の仕事は、まず教員自らが人間としてのまことの生き方を学び続ける姿勢をもつことが重要であり、その姿を通して、生徒に学び続ける意義とその重要性を伝えていくことが求められます。このことを踏まえ、仏教・真宗によって「自己を問い、人間を問う」ことを重視

する本学科において養成したいと考える教員像は、教育の現場において、まず自らが率先して学び、また共に学びあうことを通して、生徒達の自己を省察する力を深め、互いの人格を尊重する精神を育んでいくことのできる教員です。